

山口宇部 医療センター だより



病院から望む夏の「キワ・ラ・ビーチ」

理念

患者の権利を尊重し、最新の医学知識に基づく医療を提供します。

基本方針

1. がん、呼吸器疾患の専門病院として、高度で専門的な医療を提供します。
2. 重症心身障害児(者)の専門施設として、きめ細やかな医療と療育を提供します。
3. 十分な説明と同意に基づいた患者中心の医療を実践します。
4. 臨床研究を推進し、医学の進歩に貢献します。
5. 地域医療連携に努め、医療従事者、地域住民の医学教育、研修を行います。



独立行政法人 国立病院機構

山口宇部医療センター

山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

〒755-0241

山口県宇部市東岐波685番地

TEL.0836-58-2300(代)

FAX.0836-58-5219



<https://yamaguchiube.hosp.go.jp/>





特集

アジア胸部画像学会

(Asian Congress of Thoracic Imaging: ACTI)

に参加して

統括診療部長 放射線科 田中 伸幸

先日、2023年6月15日(木)から6月17日(土)の3日間、韓国のソウルでACTIが開催され、胸部(呼吸器)放射線科医として参加してきました。この国際学会は当初は日本と韓国の胸部放射線科医による日韓胸部放射線学会として始まり、その後、日本、韓国以外のアジア諸国の放射線科医も加わって2015年に、ACTIと名称が変更され、今日に至っています。

韓国で開催された今回は18カ国からの参加があり、日本からは28人の胸部放射線科医が参加しました。私は8セッション、計35題の教育講演のうちの一つを依頼され、30分の講演を行いました。国際学会における英語での講演は2年ぶりでしたので、少々緊張しましたが、なんとか、無事に終わることができました。二日目の6月13日は、韓国の有名なグループである、BTSのデビュー10周年の記念日であったので、講演の冒頭にそのことを祝うスライドを入れ、少しばかりお祝いのコメントを述べさせていただいた所、大変うけてしまったことも、発表がスムーズに進行した要因であったようです。

演題のタイトルは、英語名で「Infection: Update on pulmonary fungal infection」、日本語名で「感染症：

肺の真菌感染についての最新情報」ということで、簡単に言えば、肺の真菌、いわゆる、カビによる感染症の画像診断についてのお話です。

カビ、真菌類は、免疫の正常な人には感染しにくいのですが、免疫の低下した患者さんには重篤な感染症を起こします。アスペルギルス、カンジダ、などがよく聞く名称だと思いますが、AIDSの感染症で一躍有名になった、ニューモシスチスカリニ肺炎(現在はカリニという名称は使用されず、ニューモシスチスイロベチー肺炎と言われます)も重篤な真菌感染症の一つです。これらの重篤な感染症の画像診断、特にCT診断は重要で、診断が遅れると致命的ですので、我々放射線科医の役割は重要です。医学の進歩により癌化学療法(抗癌剤治療)が発達している昨今では、免疫低下患者の肺感染症(日和見感染と呼びます)には頻繁に遭遇し、肺癌の化学療法を多く行っている当院でもまれなことではありません。CT画像を用いて正しく、そして、迅速に診断できれば、患者さんを治療による合併症から救うことができます。私は、山口大学放射線科在籍時に、免疫低下患者の肺合併症の画像診断を主たる研究テーマの一つにしていたので、豊富な症例の画像が手元にあり、それらの実際に経験した症例を用いて、診断のノウハウ、コツなどを発表しました。

この講演は初日の午後であったので、その後は気楽に学会に参加できました。間質性肺炎、肺感染症、肺癌の画像診断など、可能な限りの講演、発表を拝聴しましたが、特に、低線量CTによる肺癌検診についての講演には参加者も多く、討論も多くなされていました。この検診による肺癌死亡率の低下がエビデンスとして報告されたこともあり、現在の胸部画像診断の領域ではトピックスともいえる話題であり、今後、世界的に盛んに行われていくと思われます。当然、当院でも低線量CTを用いた検診を行っておりますので、多くの方が検査を受けていただければ、と思います。詳しくは、当院ホームページを参照ください。

山口宇部医療センター 低線量CTによる肺がん検診のご案内

検索

学会の会場になったのは、Grand Walkerhill Seoul という、有名なホテルで、カジノもあります（私は行きませんでした）。ソウルの中心街からは少し離れた所にあり、ある意味、“隔離”されたところに位置していますが、すぐそばには漢江（「ハンガン」と読みます）という、雄大な川が流れており、景色の良い所でした。また、会長招宴にも招いていただきましたが、その会場が、ホテルに隣接している、Aston House（アストンハウス）という、非常にきれいな建物でした。このAston Houseは、「冬のソナタ」で有名な、ペ・ヨンジュンさんをはじめ、韓国のセレブたちが結婚式を挙げた場所としても有名です。同じテーブルに韓国、中国、台湾の放射線科医がおられ、非常に楽しいひとときを過ごすことができました。

ただ、楽しいことばかりではありませんでした。学会中は、長崎大学から参加の放射線科の先生と行動を共にしており、帰りの飛行機も同じ便であったので、一緒に仁川空港に行き、チェックイン、荷物チェックを終え、第1ターミナルに入場しました。そこで、一緒に免税店巡りをしていたのですが、おそらく、通ってはいけないところを通ったらしく、第1ターミナルから出てしまい、第1ターミナルに帰れなくなりました。強面で屈強な空港職員に連れられて、いろいろなチェックを受けつつ、正規のルートではないところを“連行”され、なんとか、第1ターミナルの搭乗口にたどり着いたのは、出発の10分くらい前でした。ずっと同行の先生と真っ青になりながら、“一言も話さない”空港職員について行きましたが、拘束されるのではないかと、とか、“かの国”に拉致されるのでは、とか、いろいろ、考えてしまい、果たして無事に帰国できるのだろうか、と不安になりました。なんとか、帰国できましたが、今考えてもゾットする出来事でした。

皆様におかれましては、慣れない土地では、決して変なところに入っていかないようにしてください。

この韓国での、“いろんな面で有意義”であったことを今後の診療、人生に役立てていきたいと思っております。



Aston Houseの庭で行なわれた会長招宴。前列左が筆者。後ろに流れる雄大な川は漢江。

5階病棟

看護師長 濱咲 真理子

5階病棟は、病床数60床の腫瘍内科と呼吸器内科の病棟です。約8割ががん患者さんであり、主に抗がん剤治療や放射線治療を行っています。毎月抗がん剤治療のため約40～50名、放射線治療のため約5～6名の患者さんが入院されます。

がん治療においては、日々治療法や薬の開発が進んでいます。患者さんが安全に安心して治療が受けられるように、看護師は知識技術の習得に努めています。病棟にはがん化学療法看護認定看護師1名とがん放射線療法看護認定看護師1名、院内がん化学療法認定看護師が3名おります。専門性の高い治療に対応できるよう、認定看護師が中心となって病棟スタッフの指導に当たっています。また、がんによる症状や治療に伴う症状について、多職種で連携し症状緩和に努めています。

呼吸器内科ではCOPDや間質性肺炎の患者さんが多く、緊急入院の対応や人工呼吸器の管理を行っています。呼吸器疾患や人工呼吸器について勉強会を定期的に開催しています。

病棟は病棟の最上階に位置しており、病室からの眺めがとても良いです。テイルームからは海が見え、患者さんの憩いの場になっています。天気の良い日は大分県の国東半島が見晴らせます。

4月に新しい看護師3名を迎え、看護師31名となりました。看護補助者と力を合わせ、患者さんや家族によりそった、専門性の高い看護の提供を目指して頑張っています。



5階病棟の病室からの眺め

「放射線治療外来のケア」と 「新放射線治療装置の導入」 のご案内について

放射線治療外来担当看護師

金子 秀子

山口宇部医療センターではがん治療として、手術・抗がん剤治療・放射線治療・緩和治療を行っており、2023年2月に放射線治療装置を新しく更新いたしましたので、その治療装置についてイメージが少しでもお伝え出来ればと思います。

当院では毎週、呼吸器内科・腫瘍内科・呼吸器外科・放射線科の医師が「がん患者カンファレンス」で治療方針の相談を行っています。放射線治療は肺がんが主になりますが、他病院からのご紹介で膀胱がんや乳がん治療、痛みの軽減目的での照射など多岐にわたり治療を行っています。

従来の治療は体表面の皮膚マーキング(肌にしるしを付ける)だけで放射線の照射をしておりました。しかし新しく導入された今回の治療装置では、治療の精度を保つための体表面光学式トラッキングシステム(Catalyst)・2DX線撮影機能・kV CBCT(診断レベル線量)を用いて確実に照射されるのが特徴です。

放射線治療を受ける患者さんは入院と外来の方がおられます。看護師として放射線治療前から患者面談に同席し、患者家族の思いや不安を伺い、また医師からの説明が正しく理解されたか確認しております。放射線治療が開始されたら副作用の観察や患者さんからの話を聞き、放射線科医長に報告し放射線治療主任技師、放射線治療担当技師と相談します。チームで関わりそれぞれの専門性が活かされるように毎週カンファレンスを行っています。

また、放射線科医師や放射線技師は男性のため女性の患者さんには必ず看護師が付き添うなど、患者さんにも安心して治療が受けられるように心がけております。

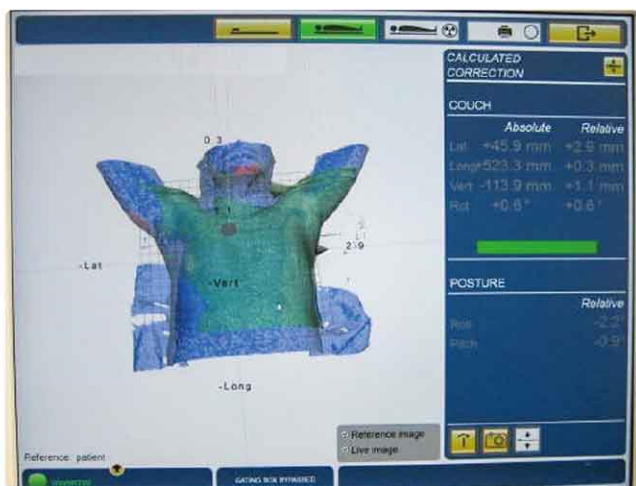
ご紹介して下さる病院や開業医の先生方に感謝申し上げますと共に、患者さんの放射線治療に寄り添う看護を実践していきます。今後ともよろしくお願いたします。



新放射線治療装置



照射部位の位置決め



体表面光学式トラッキングシステム(Catalyst)



放射線治療チームメンバー

臨床検査科

病理主任 山下 大貴

当院の臨床検査科には、以下4つの部門があり、現在、10名の臨床検査技師(常勤7名、非常勤3名)で分担しています。

- 検体検査(血液や尿などを検査する部門)
- 病理検査(手術で摘出した臓器などを検査する部門)
- 生理検査(肺機能検査や超音波検査等をする部門)
- 微生物検査(細菌やウイルスを調べる部門)

今回はがんの診断において重要な病理検査の1つである細胞診検査についてご紹介します。

細胞について

人体は、数十兆個の細胞より成ります。正常細胞は、細胞分裂で増殖しながら、老化した細胞と置き換わり全体で調和を保ちます。しかし、時に遺伝子に異常を起こした細胞が無制限に増殖し、体に害を及ぼす事があります。これが、『がん細胞』です。

細胞診検査とは

細胞診検査は、身体の粘膜や粘液、痰、甲状腺、乳腺等、身体の中にある細胞を顕微鏡で観察し、細胞がどのような状態になっているのかを調べる検査のことです。採取した細胞をスライドガラスに塗りつけ、細胞に色をつけて見やすくします。その後、細胞検査士が染色した細胞を顕微鏡で観察し、細胞が正常か、それとも悪性なのかを判断し、病理医と協議した上で最終的な診断を決定しています。

細胞検査士になるためには

がん細胞を見つけ出すのは、細胞検査士の職務です。細胞検査士になるためには、まず臨床検査技師の国家資格を取得しておかなければいけません。また、細胞診検査に関連する実務経験が1年以上必要です。上記以外にも、細胞診検査養成所や養成コースのある大学を卒業することでも受験可能です。

試験は、1次試験(筆記試験)と2次試験(実技試験)があり、両方に合格することで細胞検査士に認定されます。資格取得後は、5年毎に更新をしなければ認定資格を失います。医療は、日々進歩しており、質の高い医療を提供する為に、研修会や学会など積極的に参加し、日々努力を重ねています。

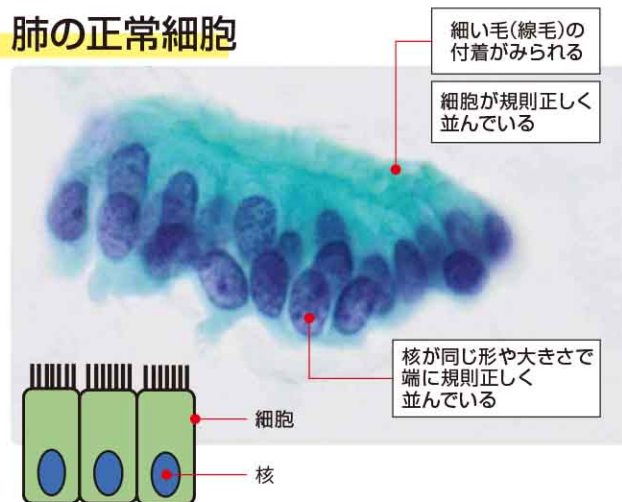
最後に…

我が国における死因の第1位はがんで、中でも肺がんは男性で第1位、女性で第2位となっています。当センターの入院患者の多くは肺がんで、呼吸器外科手術数は、全国でもトップクラスです。たばこを吸う人は肺がんで死亡するリスクが、たばこを吸わない人に比べて、日本人男性では約5倍、女性では約4倍高くなります。

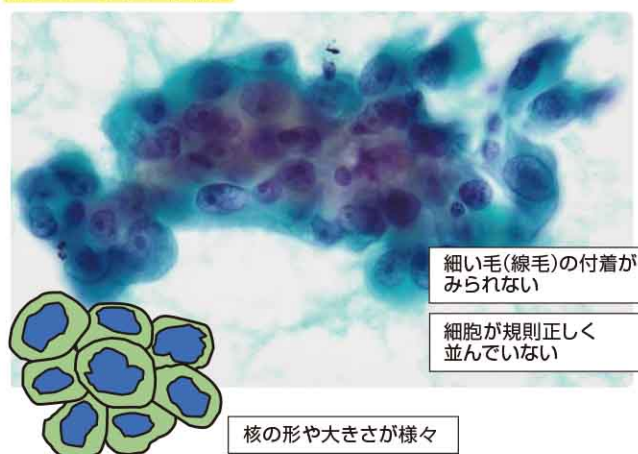
また、たばこを吸う年数、本数が多いほど肺がんになりやすくなり、たばこは喫煙者本人のみならず、周りの人(受動喫煙者)の肺がんリスクも上げます。

禁煙によってご自身と周りの人の肺がんリスクを下げるすることができます。肺がんでは早期発見・早期治療が重要ですが、山口県の肺がん検診受診率(40歳~69歳の男女)は、約45%(2019年時点)と決して高い数値ではありません。是非、積極的にがん検診を受けましょう。

肺の正常細胞



肺のがん細胞





きらら病棟 夏の行事

「きらら水族館へようこそ!!」

療育指導室 保育士 中村 琴美

令和5年7月12日(水)、きらら病棟デイルームを「きらら水族館」に大変身し、夏の行事を行いました。デイルーム入り口にはきらら病棟の皆さんに作って頂いた魚たちがお出迎えをしてくれます。中に入ると、大きなクジラや魚、ペンギンたちのいる「きらら水族館」です。

皆さんには大きく4つのイベントに参加して頂きました! 1つ目は「ペンギンのえさやり体験」です。きらら水族館にしかないという大きなペンギン2羽が登場しました。名前は「ぺんちゃん」と「ぎんちゃん」です。ペンギンたちはとても食いしん坊で、冷たい大きなお魚を食べてもらいました。冷たい魚を持って、利用者の皆さんは少し驚く方もおられましたが、魚を食べて喜ぶペンギンを見て、嬉しそうな表情をされる方もおられました。

2つ目は「アシカショー」です。きらら水族館名物のアシカショーはアシカの「アッシー」と「ジョー」の2頭が元気にボールや輪投げをキャッチしてくれます。アシカ

を見て、少し怖がられる方もいましたが、利用者さんが投げられた輪投げをアシカがキャッチすると会場は「すごい!」と大盛り上がりでした!

3つ目は「魚とり体験」です。魚が出てくる前に、サメが入ってくるというハプニングもありましたが、会場を悠々と泳いでサメは逃げていきました。可愛い魚たちを網などで捕まえることができ、皆さん笑顔になられていました。

そして最後4つ目は「エビとカニとダンス」です。一部の人には可愛いエビちゃん、カニちゃんに変身してもらい、みんなで「♪エビカニクス」を元気に踊りました。テンポの良い明るい曲で、会場もより賑やかな雰囲気になりました。

普通的水族館とは少し違いますが、ペンギンや魚たちを見たり、会場の賑やかな雰囲気を感じたりすることで笑顔になれる方もおられ、きらら水族館を楽しまれたようでした。



外来診療担当医表

令和5年8月1日 現在

| 診療科 | 概要 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-----------|--|--|---------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| 内科新患外来 | | 青江 啓介 <small>以下週替り</small> 山本 佑 藤井 哲哉 原田 美沙 水津 純輝 上原 翔 | 前田 忠士 兼定 晴香 | 沖村 昌俊 兼定 晴香 | 久本 優佳里 兼定 晴香 | 角川 智之 渡邊 倫哉 |
| 内科紹介外来 | | | 亀井 治人 | 亀井 治人 | | 亀井 治人 |
| 内 科 | | | 石田 浩一 | | | 石田 浩一 |
| 呼吸器内科 | | 坂本 健次 松森 耕介 兼定 晴香 | 恐田 尚幸 原田 美沙 水津 純輝 山本 佑 | 恐田 尚幸 末竹 諒 藤井 哲哉 上原 翔 | 坂本 健次 松森 耕介 水津 純輝 藤井 哲哉 | 山本 佑 原田 美沙 上原 翔 兼定 晴香 |
| 腫瘍内科 | 抗がん剤治療 肺がん等 | 前田 忠士 近森 研一 | 青江 啓介 | 近森 研一 宇都宮 利彰 (午後のみ) | 前田 忠士 | 青江 啓介 |
| 画像診断科 | 画像診断等 | | 松本 常男 | | | 松本 常男 |
| 呼吸器外科新患外来 | | 井野川 英利 | | 沖田 理貴 | 岡田 真典 | |
| 呼吸器外科・外科 | 肺がん | 沖田 理貴 岡田 真典 | | 井野川 英利 岡田 真典 | 井野川 英利 沖田 理貴 | |
| 乳腺・消化器外科 | 胃がん・ 大腸がん等 | 平澤 克敏 | | 平澤 克敏 (午前中のみ) | | 平澤 克敏 (手術で不在の場合あり) |
| 緩和ケア内科 | ※完全予約制 | 竹内 愛 | 小笠原 啓子 | | 竹内 愛 | |
| 放射線科 | 画像診断・ 放射線治療等 | 田中 伸幸 田口 耕太郎 | 田中 伸幸 田口 耕太郎 | 田中 伸幸 田口 耕太郎 | 田中 伸幸 田口 耕太郎 | 田中 伸幸 田口 耕太郎 |
| 小 児 科 | 重症心身障害児(者) 発達障害児 (15歳まで) ※予約制 | | 奥田 裕美 | 奥田 裕美 | | 沖野 文子 |
| 精神・神経内科 | てんかん等 | 小野 光弘 | 小野 光弘 | 小野 光弘 | 小野 光弘 | 小野 光弘 |

※下記診療科は入院患者のみ診療

| | | | | | | |
|---------|--|--------------------|------|-------------------|---------------------|-------|
| 消化器内科 | 内視鏡等 ※午前中のみ リウマチ・骨粗鬆症等 ※午前中のみ | | | | 松本 俊彦 | |
| 整形外科 | | | | | | 藤本 和弘 |
| 歯 科 | ※午後13時～ | | 鈴木 怜 | 原田 彩 | | |
| 耳鼻いんこう科 | ※午後13時～ | | | 岩本 文 | | |
| 神経内科 | ※午後13時～ | | | 山本 史佳 | | |
| 皮膚科 | ※午後14時～ | | | | 杉本 紘子 | |
| 循環器内科 | | 中嶋 佑輔 (13時～17時) | | 宇野 萌 (13時～17時) | 小室 あゆみ (13時～17時) | |

① 外来受付時間：午前8時30分～11時30分 【外来診療開始時間：午前8時45分～】

※内科新患外来：午前9時30分～11時00分 / 内科紹介外来：午前9時00分～11時00分

② 再診の予約受付は、医療事務室までお問い合わせください。

③ CT及び核医学(シンチグラム)の外来紹介は、地域医療連携室(内線2452)までご連絡ください。

患者紹介に関するお問い合わせは、地域医療連携室まで

地域医療連携室

受付時間 / 毎週月～金曜日まで 8時30分～17時15分

TEL(0836)58-4100 FAX(0836)58-2938

